
喋ってないで手を動かせ！

湊美耶子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

喋ってないで手を動かせ！

【Nコード】

N7379P

【作者名】

湊美耶子

【あらすじ】

主人公が奮闘してます、……何に？

中学生の授業風景を切り取ってみた感じ。

BLと言う単語が主人公の脳内台詞に入っているだけで、実際はBL風味0%です。

「さあ、友よ！ノーベル文学賞受賞者もびっくりの小説を書こうではないか！」

「うん、一人でやれ」

俺はその辺にいる中学二年生、男子、名を李徴と言……わねえよ、何で山月記だよ。

あ、中学生が知らねえだろって？俺は二 動のニヤンコ動画見たから知ってるんだよっ！

まあ、何だ？俺は俗に言う現役の中二病患者……ではなく、普通の中学生だ。

だって俺なんとかオタクとかじゃない、コ房なだけだ。

とりあえず、現状況を説明しよう。

本日の国語の授業で自分で物語を書いてみよう！

という4、50分では無理だろ……な課題が出やがった。

起承転結はなくてもいい、会話のみでも可とか、10行くらいは書けよ、

とか結構適当な条件を挙げていった。

モウソレモノガタリジャナイって言いたい。

そして、国語担当教師オメガは一通りの条件を話し終わると

個人個人の机に回り、うんたらかんたらアドバイスのものを寄越している。

え、何でオメガかって？何となくだよ、何となく。

俺はそれを聞き流す振りをしながら、しっかり聞き取り——（だって何も思いつかんし）、

隣の友人兼愛人、いやゴメン、愛人とか嘘だから、うん、普通の友人だから、

ビ―エル

BLとかじゃないから！なんて自己突っ込みをしつつ、その友人相手に喋りかけ、横を覗く。

あれ、もう10行くらい書いてる、こいつ何？何で書けんの？センセイの説明終わって書き始まってまだ5分くらいだぞ？どーせ変な恋愛モノとか、自分が主人公で勇者とかなんだろう……？

まあいい、友人は俺、俺は友人……じゃなかった。友人は愛人、俺は恋人……んん？

さて、何を書こうか……加工化……下降か……河口か……。

「駄目だ、思いつかん。世界征服のほうが簡単な気がしてきた」

「いや、普通逆だろ」

冒頭から俺のボケに的確な突っ込みをしてくれるのは友人P。

別にパ行の苗字とか名前とじゃないぞ、気分だ、気分。

「つつかお前何書いてんの？すっげー進んでるじゃん？アレだな、友人Tに淡い恋心を抱きのな」

「恋愛モノじゃねーし、友人Tって誰？お前？キモッ！」

どうやら恋愛モノはハズレらしい、ということはお前勇者だな、勇者Pよ。

しかし勇者Pってボー■ロイドとかで作詞・作曲してそうだな。

「Tなんていっぱいいるだろ、俺とか戸田とか、太郎君とか」

「俺っ？！つか太郎って誰！」

そしてこれが戸田君。若干引いてるのがまたイジリがいのある、ややイケメン。

ややイケメンを縮めてヤヤイケと呼ぼう、うん。

「今のノリいいなあ、メモッところ」

適度に無駄口を叩いていた俺はヤヤイケのおかげで閃き、今の流れをとりあえず書いて提出しようと考え、シャーペンを走らせようとする。

だが、何を喋ったかいまいち記憶してない……。

「いや、メモんのはいいけど、お前1行も書いてねーじゃん？」

俺は手を頭にかざし、無駄に得意げなポーズで一言。

「ふっ、実はな……何を書いていいのかわからない」

ふっ、決まった。

「カツコ悪っ」

この的確な突っ込みは勇者Pから発せられているって、何となく会話の流れで

わかってくれるとは思っただが、どうだろうか？

あー、うん、何となく何を書けばいいかわかってきたかもしれん。

とりあえずボケと突っ込みと第三者とセンセイが出ればいいんだろ。

「田中、喋ってないで手を動かせ！」

そしてオメガからの叱責。

負けんぞ、俺は権力には負けん……関係ないですね、そうですね。

「あ、それタイトルにするわ！」

転んでもただじゃ起きないって結構好きなことわざなんだよねえ。

ってことで俺こと田中は無事物語を書き終わることができました。

あーよかった。

ちなみにセンセイから返却されてきた答案には、一番失笑したで

賞と書いてありました。

失笑てなんだよ、爆笑してくれよ。

（後書き）

ファーストSSです。

湊と申します、はじめまして。

ふふつと笑ってもらえるお話目指しました。

誤字・脱字指摘していただけるとありがたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7379p/>

喋ってないで手を動かせ！

2010年12月30日22時03分発行